



伊丹市立幼児教育センター通信

ときめき ひらめき

Vol 23 (令和7年3月)
発行: 伊丹市立幼児教育センター
住所: 伊丹市千僧 1-1
電話: 072-780-2488
アドレス:
youkyosenta@city.itami.lg.jp

「安心と挑戦の循環」 ～アタッチメント(愛着)の形成と豊かな「遊びと体験」～

まもなく、新年度が始まります。令和6年度も大変お世話になり、ありがとうございました。

新年度を目前にして、改めて「はじめの100か月の育ちビジョン」を確認しました。「はじめの100か月」とは、母親の妊娠期から幼保小の重要な時期(いわゆる5歳児～小1)までが、おおむね94～106カ月であり、これらの重要な時期を指します。この間、乳幼児の育ちには、「アタッチメント(愛着)」「安心」の形成と、豊かな「遊びと体験」「挑戦」が不可欠だと言われています。

私たち、幼児教育・保育の現場では長きにわたり、アタッチメントの形成と豊かな体験を実践してまいりました。ですから、「はじめの100か月の育ちビジョン」を目にしても、目新しさはなかったと思います。しかしながら改めて、言葉や図で可視化をされることにより、子どもの育ちは、生まれる前から生まれてから、そして大人になるまでつながっており、だからこそ重要な時期であることを、保育者間や保護者、または地域と共有していただけたらと思います。

幼児教育関係者以外の、幼児教育に対する理解はまだまだ発展途上だと感じております。また、本市においては令和7年度より、「架け橋期の教育推進事業」も始まります。どうか、地域ごとに、公私立幼児教育施設と小学校がつながり、一人一人の子どもの100カ月が健全に温かな愛情を土台にしながら保障されることを願っております。

令和7年度は、幼児教育推進課及び幼児教育センターは新体制となります。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(幼児教育推進課長 矢田 貴美代)

★幼児教育に関するアンケートのご協力 ありがとうございました

今年度の実績とともに、年度末に実施したアンケートの結果(一部抜粋)をお知らせいたします。今後の運営に反映させ、幼児教育のさらなる充実を図ってまいります。

1

アドバイザー訪問について

- ・今年度の訪問回数…のべ336回(79施設)
- ・うち、特別訪問実施回数 のべ30回(私立9施設、公立3施設)

依頼内容は、◎子どもの発達(年齢)にあった環境づくり ◎支援を要する子ども・発達等気になる子どもへの関わり方 ◎保護者対応 ◎安全対策 ◎離乳食の食べさせ方 ◎他園の見学 ◎外国籍の子どもや保護者の対応 ◎指導要録など書類について でした。

(アンケートより)・他園の園見学の橋渡しをして頂き、大変良かった。

- ・園内職員だけでは、「今まで通り」「例年通り」となかなか気付けない事を助言頂き、考える機会となった。
- ・保育園の環境面の確認が出来た。訪問して頂いて、いつでも、どんな事でも相談して下さいと言われて安心した。

センターより…いただいたアンケート結果より、①訪問による保育助言が気づき・改善につながった ②他園との橋渡し ③安心して相談できる という点で評価頂きました。特に、私立園所より特別訪問の依頼を頂けることが年々増え、大変嬉しく思います。今年度の依頼内容を参考にいただき、「こんなことも相談できるかな?」ということも気軽にご相談ください。お待ちしております!

2

幼児教育センター主催 研修会について

参加者数…幼児教育研修会 計 14 回 866 名、幼児教育シンポジウム 342 名、キャリアアップ研修 321 名、にじいろ保育研修会 134 名 総合計 1663 名

(アンケートより)

- ・昨今の社会の教育情勢を踏まえた研修内容なので、よく理解できてすぐに実践に活かせた。特に、幼小接続については、これから積極的に取り組みたい内容だったので大変参考になった。シンポジウムでは、私立園の保育実践が聞けて、貴重な機会となった。
- ・今年度担当の分野の研修を受ける事で早速現場での実践に繋がった。また研修報告を受けて、今後の保育の参考にしている。

センターより…前年度より多くの方に参加いただきました。来年度は、「幼小接続研修会」に代わり、各拠点園における「地域部会」が始まります。アドバイザーも地域部会の一員として、幼児教育施設と小学校をしっかりとつなぐサポートをしてまいります!

3

「伊丹市 架け橋期のカリキュラム(5 歳児版)」について

- ・今年度に作成した「伊丹市 架け橋期のカリキュラム(5 歳児版)」をご存じですか。
…知っている 89% 知らない・無回答 11%

- ・どのように自園の保育、教育課程や全体的な計画に取り入れたいと思われますか。

(アンケートより)

- ・今行っている保育を、「架け橋期のカリキュラム」や「伊丹市保育環境のてびき」と照らし合わせることで、こちらがあまり意図せずしてきたことも、子どもにとってこういう学びになっているんだということを再認識することが出来た。今後職員全体にも話をおろし、子どもの学びを意識して取り組んでいきたい。
- ・当園の年間カリキュラムと照らし合わせてみて、一致している点や違っている点について今年度は確認を行った。
- ・架け橋期のカリキュラムを基に、自園の目標や特徴、地域性に合った小学校との連携や保育を進めたい。行事活動や日常の遊びが子ども主体なものになるように、保育環境の見直しを意識している。
- ・架け橋期のカリキュラムは年長児の年間計画に取り入れなければならないと考えている。
- ・園の教育目標とどのように関連するかを確認し、子供達の発達段階やニーズに応じた内容を検討し、架け橋カリキュラムの要素を教育課程に統合していきたい。

センターより…年末に周知したにもかかわらず、多くの施設において「伊丹市 架け橋期のカリキュラム(5 歳児版)」を知っていただいていることがわかりました。来年度はこれを基に、各施設における「架け橋期のカリキュラム」の編成をすすめ、伊丹市のすべての子どもの幼児期の学びを小学校へつないでいくことができるよう、アドバイザーが「架け橋期のコーディネーター」としても活動し、各施設のお力になれるよう考えております。